

学術成果公開シンポジウム

震災復興における
民俗芸能の役割と継承

2018年

2

月

10

日

(土)

14:00-17:00

会場 郡山女子大学芸術館





福島県浪江町請戸の田植え踊り、安波祭にて
(2014年3月9日、福島市内の仮設住宅)

東日本大震災の復興過程で特徴的だったのは、医療や土木インフラ・雇用などの問題に加えて、地域社会における民俗芸能や祭礼などの復旧、復興期における役割が注目されたことです。本シンポジウムの目的は、被災者の日常的な暮らしの復興に対し、地域社会に伝わってきた文化が果たす役割を明らかにすることであり、震災後の復興事業として文化財調査に関わった研究者や民俗芸能保存団体の活動を振りかえながら、なぜ民俗芸能が復興に寄与することができるのかを考えます。そして今後どのようにそれらを次の世代に繋げていくべきなのかにについても検討したいと思います。なお、本企画は『震災後の地域文化と被災者の民俗誌－フィールド災害人文学の構築』（高倉浩樹・山口睦編、新泉社）の出版を記念するものでもあります。

『震災後の地域文化と被災者の民俗誌－フィールド災害人文学の構築』

高倉浩樹・山口睦編

新泉社 2018年1月刊行 定価2,500円＋税

お問い合わせ

[会場について] 一柳 智子 (郡山女子大学) t.ueno@koriyama-kgo.ac.jp

[内容について] 大石 侑香 (東北大学) yuka.oishi.d3@tohoku.ac.jp

主催 東北大学災害科学国際研究所・郡山女子大学

共催 東北大学東北アジア研究センター

後援 福島県 郡山市 福島民報社 福島民友新聞社

福島テレビ 福島中央テレビ

福島放送 テレビユー福島

ラジオ福島 エフエム福島

プログラム

趣旨説明

フィールド災害人文学をめぐって

高倉浩樹 (東北大学)

第一部

福島県の民俗芸能

話者1 民俗芸能の復興力－田植え踊りを事例に
一柳智子 (郡山女子大学短期大学部)

話者2 震災時における民俗芸能の力
宮口勝美 (浪江町副町長・室原郷土芸能保存会)

第二部

民俗芸能と防災・震災復興

報告3 文化財化する地域文化
小谷竜介 (東北歴史博物館)

報告4 無形文化遺産の防災という考え方
久保田裕道 (東京文化財研究所)

総合討論

コメンテーター

何燕生 (郡山女子大学短期大学部)

木村敏明 (東北大学)

司会 山口睦 (山口大学)

アクセス



郡山女子大学芸術館 (〒963-8503 福島県郡山市開成三丁目25番2号)

郡山駅前から

福島交通 路線バス 9 番線 乗り場より → 郡山女子大学下車 (片道 260 円 約 30 分)

タクシー (約 1,700 円 15 分)